



セーフコミュニティいずみおおつ

本市では、国際認証制度であるセーフコミュニティ認証の取得を目指して、今年6月に活動開始を宣言しました。

ここでは、セーフコミュニティについて皆さんの理解を深めていただくための情報をお届けします。

Vol.2「セーフコミュニティの誕生と歩みについて」

皆さんにセーフコミュニティへの理解を深めていただくために8月号から連載を開始しました「セーフコミュニティいずみおおつ」の第2回は、「セーフコミュニティの誕生と歩みについて」です。

セーフコミュニティ活動の誕生については、現在から40年ほど前、1970年代スウェーデンのコミュニティで始まった傷害予防の取り組みが起点とされており、外傷による受診率の低下、住民認識度の向上および予防活動の関心の高まりが結果として報告されています。この結果に影響を受けて導入したスウェー

デンの他のコミュニティでも同様の効果を上げ、また、専門家の分析によつてその因果関係も明らかになったことから、北欧を中心にさらなる広がりを見せることとなりました。

当時、外傷を健康課題と認識した世界保健機関（WHO）は、現在の「セーフコミュニティ」活動の促進のため、スウェーデンにある研究所（カロリンスカ医科大学）との協働でWHO地域安全推進協働センターを設置し、セーフコミュニティ認証制度を創設しました。また、世界各地におけるセーフコミュニティの促進・支援などのために、現在29のセーフコミュニティ支

援センターが各地に置かれており、わが国においては「日本セーフコミュニティ推進機構」が国内唯一の支援センターとなっています。（左図参考）

近年、セーフコミュニティは世界レベルでの広がりを見せており、今年の5月現在では全世界で334の地域が認証されています。認証地域の分布については、スウェーデンやノルウェーをはじめとする北欧、オセアニア、北アメリカ、韓国や中国などのアジア地域で認証が多い傾向がありますが、人口規模に関しては、千人程度の村や数百万人の大都市とさまざまです。

日本では、平成20年に京都府亀岡市が日本で初となる認証を受けて以来、現在では9つの自治体が認証を受けています。また、これから認証取得を目指している自治体は本市を含めて5つとなり、その他、取り組みを検討している自治体も複数あることから、日本におけるセーフコミュニティの取り組みは徐々に広がりをを見せている状況です。

本市では今年6月にセーフコ

ミュニティ活動の開始を宣言し、認証取得を目指しています。が、国際認証の取得が市のブランド力の向上に繋がるのもセーフコミュニティに取り組みメリットの一つと考えられます。

問合 危機管理課（市役所4階）

日本セーフコミュニティ推進機構代表理事・白石陽子氏のコメント



白石陽子氏

セーフコミュニティの概念が日本に持ち込まれた当時、「世界でも有数の安全国といわれる日本で、いまさら海外の活動は必要なのか」という声も聞かれましたが、現在では、安全向上はもちろん、「協働によるまちづくり」の手法としても関心が高まっています。この活動の良さは、協働の仕組みのなかで、地域の資源を最大限に活用しながら、実情にあった取り組みを展開し、その成果を確認する「体制」「仕組み」「能力」の構築にあります。